

現在用いられている筋弛緩モニタの特徴と使用法

Characteristics of and how to use neuromuscular monitors currently used in clinical practice

*鈴木 孝浩¹

*TAKAHIRO SUZUKI¹

1. 日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野

1. Nihon University School of Medicine, Department of Anesthesiology

筋弛緩薬とその回復薬の使用法への耳目が集まるとともに、筋弛緩モニタの使用率は増加していると思われる。患者安全のために、深部筋弛緩維持が推奨される場面や筋弛緩からの確実な回復を促す場面には、筋弛緩モニタリングが不可欠であるためである。とくに残存筋弛緩回避のためには、スガマデクスの使用のみでは不確実であり、筋弛緩モニタリングとの併用により初めて残存筋弛緩ゼロを担保できるのである。現在、臨床応用されている筋弛緩モニタには、加速度感知型としてTOFウォッチ[®]、圧電気感知型としてNMTメカノセンサ[®]、そして本邦で使用可能になって間近いTOFカフ[®]があるが、実際に使用してみて臨床麻酔に適する操作の容易性、評価の信頼性という点ではすべてクリアしていると感じているが、それぞれのモニタの特徴や使用法、利点、注意点について紹介したい。